

## 研修報告書 No.11

所 属： 国立国際医療研究センター病院

研修先： 大月病院

私は今回、大月町国民健康保険大月病院にて4週間にわたり地域医療研修を行いました。研修を通じて地域に根ざした病院の役割の重要性を実感しました。

幡多郡大月町は人口4500人ほどの町で、高齢化率は約50%と高齢の方が多地域です。患者さんも高齢の方が多く、100歳を超えている方が何人もいることに驚きました。定期診察で通院される患者さんは高血圧や脂質異常症、糖尿病といった生活習慣病をはじめとしたマルチプロブレムの方が多く、一般内科として先生方が豊富な知識で診療を行っている姿が印象的でした。

また、外来診療を通じて、地域に根ざした助け合いの精神も感じることができました。ご近所の方が高齢の患者さんの異変に気がついて病院受診に付き添ってくださるケースが多く、普段から地域の方同士で深い交流があることを実感しました。医師、看護師をはじめとした病院職員も患者さんのおかれている状況を十分に把握しており、信頼関係の元で、生活環境や社会背景を考慮しながら治療方針を決定している姿が印象的でした。

また、大月病院は内科診療を中心とした病院ではありますが、地域に根ざした病院として、内科診療だけではなく、小児科疾患、眼科疾患、軽症の整形外科疾患、皮膚科疾患、外傷診療や救急対応も行っているのが印象的でした。整形外科領域では、弾発指の腱鞘切開や陥入爪の抜爪といった小手術も行っており、診療の幅広さに驚きました。私が普段勤務している病院は三次救急病院であり、救急科の医師が交代で24時間勤務しており、各科の医師へ24時間コンサルトできる体制も整っているため、専門外のことに 대해서는 すぐに他科にコンサルトできる環境にあります。しかし、大月病院では専門病院までの距離が遠く、気軽に紹介を行うことが難しいため、対応できることは大月病院で対応していると聞いて、地域病院の重要性を実感しました。救急対応も通常外来診療の合間で行っているため、素早く的確に対応する姿が印象的でした。外科的介入が必要な疾患や循環器疾患など、大月病院で治療が完結できない患者さんの転院搬送にも同乗しましたが、転院先の病院までは救急車で40分ほどかかり、大月病院での的確で迅速な転院の判断と初療の重要性を感じました。大規模な病院と比べると医療資源の制約はあるものの、地域の方々が通いやすい場所で診療を行い、必要があれば高度医療を提供できる病院への橋渡しをおこなうことが地域病院に求められていることだと感じました。

また、研修では往診にも同行させていただきました。定期的に施設入所中の患者さんの往診を行い、身体診察にて異常所見の出現がないか確認しました。先生方が看護師や介護士から聴取したプロブレムの変化に合わせて処方を変更し、細やかな診療を行っている点が印

象的でした。特に病院に隣接している施設では入所中の方の体調変化などを看護師さんがすぐに病院に相談できる体制が整っており、必要があれば入院加療を行うことできめ細やかな医療を提供できる点が印象的でした。

医療の細分化が進む中で、地域医療を通じて限られた医療資源の中で幅広い疾患に対応するための知識と技術の重要性を実感しました。また、患者さんの診療を行う際には医学的問題だけでなく、環境要因や社会的背景も考慮することが重要であることを実感しました。私は乳腺外科医を目指しており、癌診療においては特に患者さんとの信頼関係の構築や背景の理解が重要であると考えています。地域医療で学んだことを活かして、今後も診療を行っていきたいと考えています。